

地域医療研修

へき地や離島の中小病院や診療所にて地域医療の現場を経験する。具体的な研修目標や内容は下記の如くである。なお、地域医療は、協力施設（Ⅱ）（※「研修施設・協力施設とその概要」を参照）での4週以上のブロック研修とする。在宅医療は、この地域医療で行う事とする。

地域医療研修：2年次における必修研修および2回目の選択研修

指導医：研修病院の内科系・外科系診療部長、内科系・外科系診療医長および指導医としての資格のある医師

上級医：臨床経験が8年以上あるが指導医養成講習会未受講の内科系・外科系医師、および臨床経験7年以下の内科系・外科系医師

指導者：研修病院における病棟師長、外来師長、在宅医療専属看護師、コメディカル部門の技師長、他

●一般目標（GIO）

医師としての人格を育成し、将来の専門性にかかわらず、日常診療で頻繁に遭遇する疾患や病態に適切に対応できるようになるために、プライマリーケア・救急医療・在宅医療の基盤となる基本的かつ総合的な診療能力(態度、技能、知識)を習得するとともに、患者さんとの間の信頼関係を保ちながら人間を中心に考える医療を実践するための基本的態度を身につける。

●行動目標（SBOs）

- ・ 患者および家族との信頼関係を確立することができる。
- ・ 他職種を含めたチーム医療を理解し、その中で指導医、上級医とともに医師としての役割を果たすことができる。
- ・ 頻度の高い内科・外科系疾患の病態生理を理解できる。
- ・ 問診・身体診察を含む非観血的診断スキルを身につけ、総合的診断能力を養う。
- ・ プライマリケアにおける内科・外科系疾患の特徴をよく理解し、治療に必要な薬剤が及ぼす作用に関しても理解する。
- ・ プライマリケアにおける診療や治療に必要な知識・技術を習得し、救急医療でも求められる迅速な判断・対応を身につける。
- ・ EBMに基づく医療を行うための情報収集・技術講習を通じ、積極的に自己啓発に努めることができる。
- ・ 地域における在宅医療の必要性を理解し、在宅医療に必要な知識・技術を習得する。
- ・ 地域中核病院にて診療に従事する重要性を理解・自覚し、地域チーム医療としての病院連携を図ることができる

●方略

各病院のプログラムに合わせるが、基本は以下の通りである。

研修内容

1. 一般外来診療を行う。
2. 病棟管理も主治医となり行う。
3. エコー(腹部、体表、血管、心臓)を実施する。
4. CT や MRI での基本的な画像診断を行う（緊急性の判断を養う）。
5. 急性期病院への搬送の判断も行う。
6. 在宅医療(自宅・施設)への移行をはかるための多職種および患者本人や家族とのカンファレンス（院内や院外を問わず）に参加する。
7. 在宅医療の現場へ同行する。もしくは、そこで医療を実践する。

●評価

- ・ 地域医療を担う病院として定めた評価方法にて評価を行う。
- ・ 評価者は、指導医、指導者が行う。
- ・ 研修医からの評価も必ず施行する。